



JAPANESE / JAPONAIS / JAPONÉS A1

Standard Level / Niveau Moyen (Option Moyenne) / Nivel Medio

Thursday 18 November 1999 (morning) / Jeudi 18 novembre 1999 (matin) /
Jueves 18 de noviembre de 1999 (mañana)

Paper / Épreuve / Prueba 1

3h

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

Do NOT open this examination paper until instructed to do so.

This paper consists of two sections, Section A and Section B.

Answer BOTH Section A AND Section B.

Section A: Write a commentary on ONE passage. Include in your commentary answers to ALL the questions set.

Section B: Answer ONE essay question. Refer mainly to works studied in Part 3 (Groups of Works); references to other works are permissible but must not form the main body of your answer.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

NE PAS OUVRIR cette épreuve avant d'y être autorisé.

Cette épreuve comporte deux sections, la Section A et la Section B.

Répondre ET à la Section A ET à la Section B.

Section A: Écrire un commentaire sur UN passage. Votre commentaire doit traiter TOUTES les questions posées.

Section B: Traiter UN sujet de composition. Se référer principalement aux œuvres étudiées dans la troisième partie (Groupes d'œuvres); les références à d'autres œuvres sont permises mais ne doivent pas constituer l'essentiel de la réponse.

INSTRUCCIONES PARA LOS CANDIDATOS

NO ABRA esta prueba hasta que se lo autoricen.

En esta prueba hay dos secciones: la Sección A y la Sección B.

Conteste las dos secciones, A y B.

Sección A: Escriba un comentario sobre UNO de los fragmentos. Debe incluir en su comentario respuestas a TODAS las preguntas de orientación.

Sección B: Elija UN tema de redacción. Su respuesta debe centrarse principalmente en las obras estudiadas para la Parte 3 (Grupos de obras); se permiten referencias a otras obras siempre que no formen la parte principal de la respuesta.

第一部

次の 1 (a) の文章と 1 (b) の詩のうち、どちらか一つを選んで解説しなさい。
(コメントリーを書きなさい。)

1 (a)

「トリーキー作『どん底』第四幕で、どん底ぐらしのサーニンが、宙に指で人間のかたちをかいて、こうつぶやく。

「これは……うんと大きいんだよ。すべてのはじめとおわりが、この中にあるんだ。にんげん！ 人間はうやまわなくちや。あわれむものじゃない。同情なんかで人間をはずかしめちやいけないんだ」

5

このような人間観を受胎した営み、そこに教育のいのちがあるのではあるまいか。

ぼくは学校という場へ一九三六年春まで十五年かよったが、サーニンの言うような人間観について教室で出会わなかった。生徒生活の第一日は「口をきちんとして」という号令ではじまった。『沈黙の美德』の出発であった。そして校門を去るとき、この国の学校教育が最高に背のびして青少年の心に与え得たものは『同情の美德』であった。

10

当時の学校には、ニセの人間尊重の形式だけがはびこっていた。同情という名の加害行為で他人と手をつないだつもりになる錯覚、こまると他人に同情を求めたがる根性がそこで育てられた。人民がしんに連帯するすじ道は断ち切られていた。

物を疑うことの価値にめざめるとき、はじめて人間は進歩するのに、そういう起点は「忠誠」の二字におしつぶされていた。善意の教師、まじめな生徒ほどその雷薄に深くむしばまれた。おしきせの優等生意識にはまりこんでいたぼくも例外ではなかった。だから日本人ではない教師に出会ったとき、痛棒をくらうのは当然だった。

15

東京外国語学校にはいつてやがて作文を書いたとき、ぼくは「半信半疑」という日本語を横文字に直訳してもちいた。それを見たスペイン人ホセ・ムニョス先生は、ぼくをゆびさして言った。

20

「半信半疑？ おかしいではないか。信するってことは疑わないことだよ。たとい二分の二だろうと三分の二だろうと疑う気持があったら、それは相手を信じていないことではないか。どうして日本人はそんないい加減な言葉づかいをするのか」

ムニョス先生は、驚きと忠告の思いを全身で表現しながら語った。ぼくは顔をまっかにした。はずかしさの裏に、しかし快感があった。英語のエデュケーションも、スペイン語のエドゥカシオン(教育)も、ラテン語のエドゥカテイオ(ひきだす)という動詞からうまれたが、そのときのぼくは自分の内側から大切なものをひきだされていると自覚した。そういう快感だった。また、人間は言葉を全身で発音できることも、そのときに知った。

25

ふりかえってみると、ぼくの悩みと目ざめの分岐路にはたいてい異邦人が立っていた。書物を媒介とした思想家、革命家、文学者だけではない。短期の異国旅行でめぐりあった労働者や農民や婦人たちが、ぼくのかげがえのない教師となった。その人たちが事実

30

で教えてくれたものは、…口にいえば、生きることの弁証法であった。ものはみな変るし、変え得るものだという認識であった。

35

ぼくがこの国で受けた学校教育のてっぺんには、「万古不易」という静止の発想があった。弁証法はゼロであった。だから自分の生活を一つの戦闘として組上げようとすれば必然に日本を拒絶しなければ日本に回帰できなかつた、と、いま思いかえされる。

40

あの一九四五年夏にからくも自分の生存をささえ得たのも、魯迅との出会いが先行していたからであった。「空虚の中の暗夜にどう肉薄するか」——それをわが身で実証したこの中国の文学者は、ハンガリー詩人の「絶望の虚妄なることは、まさに希望と相等的い」との…句を引用して、絶望のどん底から希望をひきだす道をゆびさしていた。

ぼくは、絶望がホントだから希望もホントなのだを受けとめ、魯迅の力説した「絶えず刻む」生きかたを自分なりにきずきはじめたのであった。

(むのたけじ)

(注) むのたけじ (一九二五〜) 評論家。朝日新聞社の記者を経て、戦後郷里の秋田県で、新聞「たいまつ」を刊行。

ゴーリキー (一八六八〜一九三六) ロシアの劇作家。戯曲『どん底』は、どん底の生活にあえぐ人々を描いて、資本主義社会を批判した作品。

万古不易 いつまでも変わらないこと。

魯迅 (一八八一〜一九三六) 中国の文学者。『阿Q正伝』『狂人日記』は代表作。研究に「中国小説史略」などがある。

― 作者は、少年時代にどのような教育を受けたと言っていますか。

― 外国人の教師から、作者はどのような影響を受けましたか。

― 作者は何が真実の教育であると述べていますか。

― 作者はどのような生き方をしようとしていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

1 (b)

燃える

黄金の太刀が太陽を直視する

ああ

恒星面を通過する梨の花！

風吹く

5 アジアの一地带

魂は車輪となって、雲の上を走っている

ぼくの意志

それは盲ることだ

太陽とリンゴになることだ

10 似ることじゃない

乳房に、太陽に、リンゴに、紙に、ペンに、インクに、夢に！

なることだ

凄いい韻律になればいいのさ

今夜、きみ

15 スポーツ・カーに乗って

流星を正面から

顔に刺青できるか、きみは！

(吉増剛造『黄金詩篇』一九七〇年)

(注) 盲^{めい}る 視力を失う
 刺^{せい}青 入れ墨

― 詩人吉増剛造は読者に「きみ」と呼びかけています。呼びかけることによって、どのような効果が生じていますか。

― この詩の特徴を言語の面からとらえ、説明しなさい。

― この詩の題名「燃える」の意味について、さらにテーマは何であるかについて、あなたの考えるところを述べなさい。

第二部

授業で学習した部門(Part 3)から、(a)(b)の問題のうち一つを選んで、エッセイを書きなさい。エッセイを書くにあたっては、必ずPart 3で学習した文学作品三つのうち二つに言及すること。なお、この二作品のほか、他の作品について述べてもよい。

2. 美の探求

- (a) 美についての考え方は、所属する社会や時代によって変化してきたと思いますか。あるいは変わってはいないと思いますか。あなたの読んだ作品から例をあげて、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 日本文学における美意識の特徴について、あなたの読んだ作品から例をあげて、あなたの考えるところを述べなさい。

3. 個人と社会

- (a) あなたの読んだ作品において、登場人物の社会との関わりはどのように描かれていますか。例えば、社会に対する抵抗や受容など、作品によっていろいろな関わり方があるでしょう。その関わり方を比較し、論じなさい。

あるいは

- (b) 一般に日本人は個人であることの意識が稀薄であると言われていています。あなたの読んだ作品において、個人であることの意識はどのように描かれていますか。

4. 自然と人生

- (a) あなたの読んだ作品において、自然はどのように描写されていますか。人間と自然との関係について、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品において、「旅」はどのような意味をもっていますか。例をあげてあなたの考えるところを述べなさい。

5. 家族

- (a) 「日本人には人は人との対立を避けたがる傾向がある」と言われていますが、あなたの読んだ作品の中で、登場人物はどのように行動していますか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 現代は家庭が崩壊する時代であると言われています。あなたの読んだ作品の中の家庭を例にあげて、家族の人間関係について、考えるところを述べなさい。

6. 恋愛・友情

- (a) あなたの読んだ作品の中の人物は、どのような時に幸福感を得ているのでしょうか。あるいはどのような時に不幸を感じているのでしょうか。人間の幸福とは何かということについて、具体的な例をあげ、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品において、人間の愛と孤独との関係はどのように描かれていますか。例をあげて、あなたの考えるところを述べなさい。